

ま ち  
探 訪

北海道を代表する工業と自然が  
調和するまち  
**室蘭市**



室蘭市基礎データ

総人口 (住民基本台帳)	87,371人 (平成28年10月末)	漁獲高 (金額ベース)	3,756百万円 (平成26年北海道水産現勢)
高齢人口 (高齢化率)	31,044人 (35.5%) (平成28年10月末)	製造品出荷額等 (総数)	1,298,202百万円 (平成26年工業統計調査)
世帯数	46,676世帯 (平成28年10月末)	卸・小売年間販売額	213,078百万円 (平成26年経済センサス)
面積	80.88km <sup>2</sup>	一般会計規模 (歳出額予算ベース)	42,237百万円 (平成28年度当初予算)
人口密度	1,080人/km <sup>2</sup>	市の花	ツツジ

室蘭市の紹介

室蘭市は北海道の南西部に位置し、面積80.88平方キロメートル、道内市では3番目に小さく、人口密度は札幌市に次いで2番目というコンパクトなまちです。

半島部に囲まれた天然の良港である室蘭港は、明治5年の開港以来、北海道と本州を結ぶ交通・物流の拠点として栄え、港を中心に鉄鋼・造船・石油精製など基幹企業が立地し、北海道を代表する工業都市・ものづくりのまちとして発展してきました。

また、「室蘭八景」をはじめ映画やCMロケ地として使われている美しい自然景観があり、東日本最大の吊り橋である白鳥大橋や港を囲む工場群が織りなす室蘭夜景が、近年脚



白鳥大橋の夜景

光を浴びています。

地方創生の取り組み

今、人口減少は一部の大都市圏を除きすべての自治体が直面する課題となっており、室蘭市においても、1970年に約16万人いた人口は、現在約半分の8万7千人となっています。

昨年、人口の将来展望を示すビジョンと将来人口の実現に向けた総合戦略を策定したところであり、本市の産業構造など特性を踏まえ、「働くまち」として室蘭市を選んでもらうこと、働く人に「住むまち」として選んでもらうことを柱に、産業振興や定住環境整備など人口減少抑制に向けた取り組みを進めています。

まちの特性を活かした産業振興と雇用創出

人口定住には働く場が必要であり、本市の基幹産業である製造業を中心としたものづくり産業の振興により、雇用基盤の維持と新たな雇用創出につなげることが、市民に住み続けてもらう、新たな市民を増やすためには重要です。

製造業の人材確保が課題となっていますが、他産業と比べても女性の就業者比率が低いことから、託児スペースや女性用更衣室整備など職場環境改善に取り組む企業を支援するなど女性のものづくり企業への就業促進を図るとともに、現場改善インストラクター派遣による生産性向上や、ものづくり産業に限らず各種商談会・展示会への出展助成など、企業の成長力強化、販路開拓支援に取り組んでいます。

また、本市では、再生可能エネルギー利用など低炭素都市の実現を目指す「室蘭グリーンエネルギータウン構想」の推進に取り組んでおり、特に水素社会の実現に向けては、北海道のトップランナーとして、今年3月道内初となる水素ステーションと燃料電池自動車を一体的に整備し普及啓発に努めるとともに、市内ものづくり企業と水素関連先進企業をつなぐプラットフォームを構築し、水素関連市場への参入促進を図っています。

今年5月には市下水処理場内に民間整備のバイオガス発電所が稼働したほか、ヤシ殻を

燃料とした国内最大級のバイオマス発電所が平成32年稼働に向け計画されており、ものづくり産業に加え、新たな環境産業の振興などにより、雇用基盤の維持と新たな雇用創出につなげていきます。

## 子育て世代が住み続けられる環境づくり

本市の人口減少の特徴として、20～30代の市外流出が顕著となっていることから、子育て世代が望む住環境を提供するため、公共施設跡地を活用し積極的に宅地供給を進めるほか、子育て世帯の持ち家取得に対する助成や、子育て・若年世代に配慮した賃貸共同住宅整備への補助など、近隣と比較し土地の価格や家賃が高いといった住環境の課題に対する取り組みを進めています。

また、近年人材確保に向けた福利厚生の実施、技術継承につながる社員間のコミュニティ形成の場として、企業社宅の価値が見直されており、企業城下町といわれる室蘭市ならではの取り組みとして、独身寮など社宅建設への助成制度を創設したところであり、引き続き、民間と連携した定住環境整備を進めていきます。

## 港や観光資源を活かした新たな「ひと」と「もの」の流れの創出

交流人口拡大に向けた取り組みでは、近年室蘭港の新たな活用として、大型クルーズ客船の入港が増えており、今年6月には、道内入港客船では過去最大の「クァンタム・オブ・ザ・シーズ（16万7,800トン・乗客定員4,180人）」が入港しました。これら大型客船による市内経済効果はもとより、登別市や洞爺湖町・ニセコ町周辺まで観光バスが運行するなど近隣への波及効果は大きく、市民との協働による歓迎イベントなどおもてなしの充実や海外ポートセールス等により、積極的な客船誘致に取り組んでいます。



移動式水素ステーション



燃料電池自動車





客船入港の歓迎セレモニー

また、平成30年には室蘭港と岩手県宮古港との間で、フェリー航路の開設が予定されています。トラックドライバーの休息時間に適した航海時間10時間で、現在整備が進む三陸縦貫自動車道や宮古盛岡横断道路の開通により、仙台や首都圏等へのアクセスが大幅に向上することから、北海道と本州を結ぶ新たな物流ルートとして期待されています。物流に限らず、産業・観光・市民団体などの交流促進を図るため、異業種交流会や双方の観光イベントへの出展、市民参加のワークショップなど、就航に向けた機運醸成の取り組みを進めています。



就航に向け試験入港するフェリー

観光資源としては、地球岬の絶景をはじめとする「室蘭八景」など美しい自然景観があり、映画やCMロケ地として使われているほか、港を囲む工場群の明かりやライトアップされた白鳥大橋、市民の力だけで連続点灯1万日を達成した測量山ライトアップなど、夜

景が注目されており、川崎市などとともに「日本七大工場夜景」に数えられ、市内の展望台を巡る夜景見学バス運行や港内を船で一周する夜景ナイトクルーズが行われています。

これら室蘭が持つ美しい風景を積極的にPRするため、室蘭在住の映画監督に依頼し制作した市の広報動画「砂がおしえてくれた街」が、全国地域映像団体協議会主催「全映協グランプリ2016」で最優秀賞となる総務大臣賞を受賞したところです。



室蘭市広報動画「砂がおしえてくれた街」

また、産業景観と自然景観が共存する被写体としてのまちの魅力に着目し、今年9月に観光協会などが中心となって24時間滞在型フォトコンテスト「撮りフェスin室蘭」を開催しました。全国から約170名の写真愛好家が集まり、24時間のなかで撮影された作品460点から、プロカメラマンなど専門家の審査や市民投票により選ばれた入選作品30点については、様々なPRの場面で活用していく予定です。



地球岬（撮りフェスin室蘭 入選作品）

今後も室蘭市が有する資源の磨き上げとともに、積極的・効果的な情報発信を進め、観光振興・交流人口拡大に取り組んでいきます。